

「こおりやまの米」通信

令和7年7月



GOOD RICE DAY
毎月8日は
こおりやま「お米の日」



編集：郡山市

JA福島さくら郡山統括センター (TEL. 024-921-0503)

NOSAI福島中央支所 (TEL. 024-933-3307)

県中農林事務所農業振興普及部 (TEL. 024-935-1310)

発行：郡山市農作物生産対策協議会

(郡山市園芸畜産振興課 TEL. 024-924-3761)

毎月8日は『こおりやま「お米の日」』
豊かな自然と気候に恵まれた、県内一の米どころで
ある郡山の美味しいお米をたべましょう！

Vol.4 肥培管理・病害虫対策

こおりやまの米通信

検索



* 最新および過去の記事は、郡山市ホームページから見るができます。

1 品種毎の生育ステージの目安

今年の生育状況は郡山市ホームページに掲載しています。

平年の各生育ステージの目安を右表に示しました。天候等により変動するので、ほ場をよく観察し、適期に水管理や防除を行ってください。



【管内主要品種の平年の生育ステージ】(JA福島さくら郡山統括センター栽培暦)

品種	幼穂形成 始期	出穂期	乳熟期	穂いもち 防除時期
ひとめぼれ	7月11日頃	8月5日頃	8月12～15日頃	7月21～ 26日頃
里山のつづ (湖南)	7月16日頃	8月10日頃	8月17～20日頃	7月26～ 31日頃
天のつづ	7月15日頃	8月8日頃	8月15～18日頃	7月24～ 29日頃
コシヒカリ	7月17日頃	8月11日頃	8月18～21日頃	7月27日～ 8月1日頃

※幼穂形成始期：主茎の80%以上の幼穂が1mmに達した日

※出穂期：全穂の約半分が出穂した日

※乳熟期：出穂期の7～10日後、籾を指で押しつぶすと乳液状の汁が出る時期

※穂いもちの防除時期は粒剤による防除適期

<時期別の水管理のポイント> ～出穂前は低温、出穂後は高温に注意～

中干し後は間断かんがいの基本とし、出穂期は湛水して管理してください。

【幼穂形成期から出穂前まで】

17℃以下の低温時には障害不稔の発生を予防するため、幼穂形成期(出穂の25～20日前)では幼穂の高さまで、減数分裂期(出穂の15～7日前)ではできる限りの深水管理とし、幼穂を保護してください。

【出穂後】

出穂後の高温時には、品質低下対策として、田面が露出しない程度のひたひた水(飽水)管理または昼間深水・夜間落水に努め、台風等での強風が予想される場合は、穂や葉枯れを防ぐため十分に湛水してください。



2 病害対策 ～ほ場をよく観察し、過去に病害が発生したほ場では早めに防除を～

- (1) 葉いもちは、早期発見・早期防除に努め、病斑を発見したら液剤や粉剤で防除してください。
- (2) 穂いもち予防は、コラトップ粒剤5(3～4kg/10a:出穂15～10日前まで)等を散布し、特に幼穂形成期が低温で経過した場合は、穂いもちが発生しやすくなるため注意してください。
- (3) 紋枯病の発生が多いほ場では、上位葉まで病勢が進展する前にモンガリット粒剤(3～4kg/10a:出穂28～14日前(収穫45日前)まで)等を散布してください。
- (4) 稲こうじ病は出穂期に雨が多い年に多発します。出穂期に多雨が予想される場合は、前年に発生が多かったほ場にZボルドー粉剤DL(3～4kg/10a:出穂20～10日前まで)等を散布してください。散布適期が限られるので天気予報等を参考に遅れないように防除してください。

～いもち病適期防除にBLASTAM(ブラスタム)活用を～

福島県病害虫防除所のホームページでは、葉いもちに感染しやすい日を判定するシステム「BLASTAM(ブラスタム)」の判定結果を公開しています。感染しやすい日の1週間後にはほ場を注意して観察すると、予察を効率的に行うことができます。

ブラスタムQRコード →



3 追肥（穂肥）

～出穂25日前の生育状況で判断しましょう～

出穂25日前の生育状況を確認し、草丈が長く葉色の濃いほ場では、穂肥の量を減らしてください。

出穂は天候により前後しますので、ほ場内の平均的な株の最も長い茎を根元から引き抜き、カッターナイフ等で縦に半分に割り、幼穂長が1mmとなった日が出穂25日前の目安です。

表1 出穂25日前（幼穂形成期）の標準的な生育の目安

品種名	草丈(cm)	茎数(本/㎡)	葉色 (カラスケール)
コシヒカリ	65～70	630～730	3.0
ひとめぼれ	60～65	700～750	3.5～4.0
天のつぶ	65～70	520～560	3.5～4.0
里山のつぶ	65～70	500～600	3.5～4.0

表2 品種別施用時期と窒素成分量の目安

品種名	施用時期 (出穂前日数)	窒素成分量 (kg/10a)
コシヒカリ	出穂15日前	1～2
ひとめぼれ	出穂20日前	2
天のつぶ	出穂25日前	2
里山のつぶ	出穂25日前	2

表3 出穂までの日数の判定方法（コシヒカリ）

幼穂長	出穂前日数	備 考
1mm	25日	幼穂形成始期
2mm	20日	
8～15mm	18日	止葉抽出
40～60mm	14日	
80mm	12日	減数分裂期

☆出穂期追肥について

基肥一発肥料を使用した場合は、原則として追肥は行いませんが、高温が予想され、葉色が淡い場合は高温登熟対策として出穂期追肥を検討してください。

（参考）新潟県におけるコシヒカリの追肥判断基準

	判断時期	判断基準
基肥+追肥体系	出穂3日前	葉色(SPAD値)32以下
基肥一発体系	出穂10日前	葉色の低下がみられかつ葉色(SPAD値)32以下

〈カラスケールとSPAD値の換算式（秋田県）〉

葉緑素計（SPAD値）＝カラスケール判定値×5+15

例）カラスケールで3と判定されたとき、

SPAD値は30と推定される。

4 出穂後の斑点米カメムシ類対策

～適期防除で全量一等を目指しましょう～

(1) 1回目の防除

粉剤、液剤等による防除は乳熟期を基本とします。散布は畦畔にも十分に薬剤がかかるようにしてください。また、粒剤を使用する場合は、穂揃期～乳熟期に湛水散布し、7日以上止水します。

(2) 追加防除

1回目の防除後も水田内でカメムシが見られる場合は、7日おきに追加防除を行いましょう。特に、割れ粒の多い「天のつぶ」や「里山のつぶ」等は可能な限り実施してください。

(3) 出穂10日前以降の草刈り

カメムシを水田内に追い込むので避けてください。この期間に草刈りを実施する場合、殺虫剤の散布後に行いましょう。

(4) 蜜蜂等への殺虫剤による被害防止

ほ場近隣に蜜蜂の巣箱がある場合は、飛散の少ない粒剤をお勧めします。防除は、蜜蜂の活動の盛んな時間を避け、早朝または夕方とし、散布時には風向風速に注意しましょう。なお、事前に養蜂業者へ防除の予定を伝えてください。

（斑点米カメムシ類の防除剤）

薬剤名	使用量	使用回数	使用時期
スタークル粉剤DL	3kg/10a	3回以内	収穫7日前まで
キラップフロアブル	1000～2000倍、 140～150L/10a	2回以内	収穫14日前まで
ダントツフロアブル	5000倍、 140～150L/10a	3回以内	収穫7日前まで

■注意■クモヘリカメムシの発生

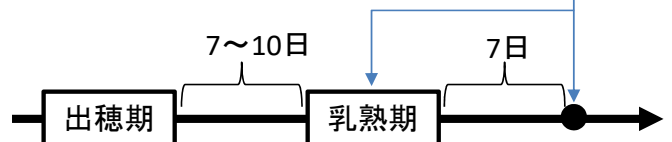
昨年の県病害虫防除所の調査において、郡山市内ではじめてクモヘリカメムシの発生が確認されました。

クモヘリカメムシの発生が多い場合は、防除のタイミングを変更してください。また、水面施用剤の効果が劣るので、液剤・粉剤を使用してください。



（写真）クモヘリカメムシ
体長は約16mm、
大型の斑点米カメムシ類
（福島県病害虫防除所HP）

カスミカメ類
（乳熟期とその7日後）



クモヘリカメムシ
（出穂期～穂揃期
と乳熟期）

（図）斑点米カメムシ類の防除時期（液剤・粉剤の場合）